

2024年度 人権学校

※参加無料・定員 各 40 人
事前申し込み不要

テーマ 朝ドラ『虎に翼』的に学ぶ^{いのち}生命と人権、



今年度の人権学校のメインテーマは、上記のとおりとしました。この朝ドラを見ていない方も多々おられるとは思いますが、この朝ドラ(脚本)のメインテーマは「憲法第14条、だ」と思います。よく出てくる法律事務所の場面では、室内の壁に手書きの大きな文字でこの第14条が書かれています。また、第1話では、14条の朗読から始まりました。

第14条はいうまでもなく、人権(教育・啓発)関係にたずさわったり、学んだりする人たちにとっては、特に基調となるものです。今回は、その中から、障がい者差別につながる『優生思想』を入口に、人権について皆さまと学び合いたいと思います。

第1回 11月14日(木) 午後1時30分～3時30分

テーマ 「障がい者差別と優生思想 ～その背景を探る～」



①障がい者差別の根源的思想である「優生思想」。その背景にある医学や科学の歴史をみってみる。その中で、ナチスドイツの断種法や日本戦時下の国民優生法(優生保護法以前)などはいかなるものだったのか、解説していただきます。

②「人権」とか「尊厳」という言葉は日常語である。しかし、そもそも「人権」や「尊厳」とはいかなるものなのか。という素朴な疑問も頭をよぎる。法律用語ではない「人権」や「尊厳」について、佐藤さんのお考えをお話していただきます。

第2回 11月21日(木) 午後1時30分～3時30分

テーマ 「人権って何ですか? 尊厳って何ですか?」



講師 佐藤 泰子さん(京都大学大学院人間・環境学研究科研究員) ※1・2回とも

2009年京都大学大学院 人間・環境学研究科博士課程修了。現在、京都大学、京都看護大学等で死生学、医療倫理、コミュニケーション論等の授業担当
<著書>・『死生の臨床人間学-「死」からはじまる「生」』2021年 晃洋書房 ・『苦しみと緩和の臨床人間学-聴くこと、語ることの本当の意味-』単著 晃洋書房 など

第3回 11月27日(水) 午後1時30分～3時30分

テーマ 「生命」の身体表現

講師 金満里さん(態変主宰・芸術監督・舞踏家・演出家)



撮影：山田徳春(500G)

満里さんは、相模原障がい者虐殺事件(2016年)に接して、「自分が殺されたかもしれない。自分もあそこにいるんだという感覚を覚えた。自分の延長線上にあの事件がある。社会が障がい者を施設に追いやっている現実を直視しなくてはならない。これは障がい者だけの問題ではない。」と話されています。満里さんの人間観のベースとなった10年間の施設体験……。そこを出て表現者として、「魂の自由を取り戻す」ことの意味をお話いただきます。

3歳でポリオに罹患、全身麻痺の重度身障者となる。1983年劇団態変を旗揚げ、身体障害者の障壁そのものを表現力に転じた身体表現芸術を世界に先駆けて創出してきた第一人者。2001年に創設した金満里身体芸術研究所では、障壁・健常を問わず広く身体表現指導を行っている。

★会場はすべて川西市総合センター(1階・視聴覚室)

川西市日高町 1-2 ☎072-758-8398

- 主 催 川西市人権啓発サポーター会・人権推進多文化共生課
- 後 援 伊丹人権擁護委員協議会川西部会
- 手話・保育 ご希望の方は、11月6日(水)までに人権推進多文化共生課へ。
- 問い合わせ 市人権推進多文化共生課 TEL 072-740-1150

